

生活力を育む家庭科学習  
—実感を伴う学びの拡充によって—

1. 研究テーマ設定の理由

(1) 家庭科学習でめざす子ども像

① 生活力とは

家庭科の学習は、人やもの、環境などのかかわりを大切にしながら、食べることや着ること、住まうこと等を扱う。対象は、身近な家庭生活や家族、学校生活や仲間、自然や社会などであり、子どもたちを取り巻く環境そのものである。

その子どもたちを取り巻く環境は、人々の生活に対する見方や考え方、価値観、生活スタイルなどの多様化がすすみ、一方では少子高齢化、男女共同参画社会の推進などの課題を抱えている。そのような状況を考えると、子どもが生活的に自立する力や、家族や家庭生活の意義や大切さを理解する力など、自分の生活を豊かで充実したものにしようとする基盤となる力や心情を育むことが大切がある。これらの力を基にして、将来にわたってより健康的で快適な生活を創ろうとする力や心情を、「生活力」とし、今年度の研究テーマを「生活力を育む家庭科学習」とし、サブテーマを“実感を伴う学びの拡充によって”とした。

② めざす子ども像

家庭科の授業といえば、調理実習や製作実習というイメージをいっている子どもが多く、授業で取り入れる体験活動や調理実習、製作実習への関心は高い。このような活動を取り入れた学習は、子どもたちにとって楽しみなものであり、すすんで工夫を凝らしながら学んでいく姿をみとることができる。体験活動や実習などの活動への関心は高いものの、毎日の生活の中で当たり前のように行われている衣食住などの生活行為・活動に対して、子どもたちはあまり意識しないですごしていることが多い。例えば、自分が着ている衣服の役割について考えてみたり、自分の住まい方について考えたことのある子どもは少ない。「買って、使って」「何となく暮らしている」というのが実態であろう。いつでもどこでもほしい物が手に入る、便利で簡略化された生活を送っている結果、あまり生活を意識することなく過ごし、「大切に扱う」という意識も低いようである。また、塾や習い事で、時間に追われる生活をしている子どもも多く、「やってもらう」ことが当たり前になっているような実態が感じられる。

家庭科の学習をきっかけに、家庭生活への関心を高めながら、家族の一員としての自分、大切な家族の存在に気づかせ、大切にしよう、そのために自分ができることは何なのかを、考えてさせたい。そして、将来にむけてよりよい生活者となっていく自分をイメージさせたい。以上のことから、家庭科学習でめざす子どもの姿を次のように考えた。

◇ 意欲的に取り組む子ども

主体的に考え、行動できる子ども

◇ 自分の課題（問いや問題意識）にこだわって活動できる子ども

子どもたちの家庭生活は個々様々であり、それぞれの課題は異なるものである。自分にふさわしい課題を見つけ、自分自身や自分の家庭に必要なだと考えられる問題解決へと、こだわりをもって思考をこらす子ども

◇ 楽しんで生活に活用しようとする子ども

家族や家庭生活を大切に思い、家族の一員として生涯にわたって自らの生活にはたらきかけををしようとする子ども

## (2) 家庭科学習における「学びの質の高まり」

家庭科学習における「学びの質の高まり」とは、自分らしく生活に生かそうと工夫する姿への変容を認識できる学びの積み重ねである。次のような資質・能力を育成することが、「学びの質の高まり」につながると考える。

その一つは、家庭生活を構成しているものや生活行為・活動にはそれぞれ意味があり、自分の家族や家庭生活の大切さに気づくということである。

二つ目は、日常生活に必要な基礎的な知識や技能を習得することである。生活の技能は、健康的な生活を営むためには必要なものであり、これらの知識や技能を、目的や状況に応じて活用しようとする際のベースとなるだろう。そのため、授業の中だけでなく、日頃からのはたらきかけが大切になってくると思われる。

三つ目は、人とのかかわりを考えながらよりよくしようとする実践的な態度である。

## 2. 研究の展望

研究テーマと関わって、子どもの実態をふまえながら「学びの質の高まり」に必要な資質や能力を育成するための手だてとして、サブテーマ“実感を伴う学び”をポイントに、題材設定を行い、正しい認識力・判断力を育み、日々のはたらきかけを行いたい。

### (1) 題材設定において

- ①適切に体験活動や実習を取り入れ、「おもしろそう」「やってみたい」と、子どもたちの興味・関心を高められるよう工夫する
- ②五感を通した直接体験をできるかぎり取り入れながら、実感を伴った具体的な学びを展開する
- ③資料やグラフを利用しながら、実際の数値やその変化を示したり、実験を取り入れたりと、根拠のある科学的な見方を大切に、自分の生活への必要性・重要性を感じられるような学習を展開する
- ④現在の社会生活の中に起きている様々な問題や実態と関連づけることにより、身近な問題として実感させられるよう工夫する

### (2) 日常生活の中での取り組み

日頃から家のしごとをよく手伝ったり、何かを自分でしてみたり、毎日の役割が決まっている子ども、全く何もしない状態の子ども、あまり意識せずに実践している子ども、様々である。保護者の協力も得ながら、家族の一員としての自分に、意識を持たせたいと考え、「生活力アップカード」を利用していく。

まず、自分たちができることとして、「週1回のお弁当箱洗い」「テーブルクロス洗濯」をとりあげ、実践中である。他に週に1度(金曜日)は、必ず何かチャレンジすることとしている。やってみて始めてわかることや再認識できることも多く、子どもの意識の変容や家庭生活を見つめ直すよい機会になるだろうと考えている。

## 3. 成果と課題の把握の手立て

子どもの授業後の感想や学びの足跡、生活力アップカードから見える実態等から、子どもの思考の変容や、目標にどれだけせまれているかを把握していく。また、よりよく刺激し合える仲間作りにもつなげていきたいというねがいをもち、自己評価や他己評価を取り入れ、自分たちの活動を振り返らせていく。